

# 所報 研究所だより

## 教育・しまんと

令和7年度  
NO. 4

発行 四万十市教育研究所

四万十市国見 222 番地  
Tel/Fax (0880) 37-2817  
ふれあい学級(0880) 31-1130

### ★ 二学期がスタート！

中学校は、8/27、28から、小学校は二学期の途中に「新校舎」への引越しをする東山小学校が、一足早く8/26から二学期がスタートしています。

ただ、先週末の9/4、5は、台風15号の影響で、4日の午後を放課措置とした学校がありふれあい学級も同様の対応を取りました。

5日については、台風も過ぎ特に影響はありませんでした。

さて、それぞれの学校には、少し日焼けをし、たくましさを感じさせる子ども達の歓声に戻ってきたのではないかと思います。

今年の夏休みも昨年以上に真夏日や猛暑日が続き、気温が40度を超える都道府県もありました。まさしく「異常気象」を実感できる日々でした。

教職員の皆さんも児童生徒も保護者の方も、熱中症等を含めて、体調管理に気を配りながらの日々ではなかったかと思えます。

台風が過ぎ、少しは秋の気配を感じるようになるかもしれませんが、大きな変化はなく、暑い日が続くことも想定されます。引き続き健康管理に留意しながら、教育活動を推進していく日々になると思えます。

9月の第二週からは、体育祭・運動会、教育文化展、指定研究の発表会等々、各種行事が計画されています。

児童生徒の安心・安全を確保するとともに、教職員の体調管理にも留意しながら、教育活動の実践、充実に努めていただきたいと思います。

今学期も教育研究所の研修会、諸行事等にご支援ご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

### ★ 「教育講演会」から

少し時間が経過しましたが、8月1日(金)の午後日程で開催した教育講演会では、**国立舞鶴工業高等専門学校特命教授の後野文雄さん**を講師に迎え、『**「医療科学・教育」両面の視点からのアプローチ**』という主題と**(児童生徒の理解と具体的な指導・支援について)**という副題のもと、四万十市の教育課題のひとつである「不登校やその傾向にあるこども、さらに長欠及び配慮の必要な児童生徒への関わり方等について、専門的見地と具体的な実践事例の紹介等を含めて、ご指導・ご助言をいただきました。

この時期、研修会等が重なる中、午前中の夏季研修会に引き続いて、数多くの先生方の参加を得て、無事開催することができました。ご協力に感謝申し上げます。

講演会終了後の「質疑・応答」の場面では、会場からの発言はありませんでしたが、閉会行事等すべてが終了したのち、数名の先生方が壇上の後野先生のそばに向かい、それぞれの想いを投げかけられていました。

それに対して後野先生は、一人ひとりに懇切丁寧に應對していただきました。駅までお送りしていく車中でも、四万十市の先生方の熱心な学びの姿に感心されていました。「機会があれば、ぜひまた呼んでいただきたい。」ともおっしゃっていました。

この後、講演内容に対して寄せられた振り返りを下記に記載しますので、各学校におかれましては、二学期以降の職員会や校内研究会等々の場で、ともに振り返っていただきながら、日々の教育実践に生かしていただければと思います。

それぞれの学校の教育実践に生かすことができる「エキス」を吸収していただけたのではないかと思います。そのことが教職員一人ひとりの意識改革に繋がり、二学期以降の学級経営や学校経営に結び付けていただければ幸いです。

## ★「教育講演会」の振り返りから

◆ 出来るだけ多くの振り返りを載せたいのですが、紙面にも限りがありますので、同じような内容については、抜粋や一部文章を接続するような形で表記させていただきます。

講演内容については、各校から高評価をいただきました。あらためてご協力に感謝申し上げます。

○ 子どもたちの様子の具体的な見取り方や、実際の声かけ、有効な手立てなどが分かり参考になった。後半、まだまだ具体的な情報があったのに、時間切れになり残念だった。

○ 本校の実情に合った講演で、大変良かった。

○ 発達障害なのか本人の怠けなのかの見極めは難しいと感じた。

○ 今回の講演では、具体的な事例を交えながら説明してくださったので、漠然と捉えていた特別支援教育のイメージがより鮮明になりました。

自校の生徒の言動を思い浮かべながら、どのように声掛けをしたらいいのか、支援の方法を考えながら聞くことができ、大変貴重な学びの機会となりました。

つい、普通に当てはめて注意をしてしまうのですが、1人ひとりの生徒の特性を理解することが大切であり、それぞれの個性や強みを尊重し、互いに認め合える学級づくりを目指していきたいと思います。

○ 特別な支援が必要な子どもの動作や姿勢・絵等からの見取り、またその児童にとって必要な支援を適切に行うことで二次障害を防ぐことも可能になることを学んだ。

また、『合理的配慮』について、児童の発達段階に応じて説明し、教材等の個別化に対する理解を促していくことも重要であると感じた。

○ 医療の面からの見取りと支援の重要性を再確認できる内容で多くの学びがあった。豊富な現場の経験からの資料もあり、実感として受け入れやすいという部分が、多くの学びにつながったと思う。

○ 特別支援教育の観点からの理論や現在地等の多様な学びはもちろん、写真等の分かりやすい資料・データを交えての講話は、教職員特に日々子どもたちと向き合っている教員の皆さんにとって参考になる点が多かったのではないかと。

○ 子どもたちの作成物や姿から特性や特別な支援を必要とする子どもたちを観察する視点を知ることができたので、支援や手立てに活かしたい。

○ 早期発見早期対応するための、さまざまなサインを事例を交えて分かりやすく話していただき、参考になった。ただ発見するだけではなく、その後の支援がその子にとってとても重要になることも学ぶことができた。

○ 子どもたちの様子をよく見て、教師が子どもたちの違和感や違いに気づけるかどうかが大切だと思った。

早めに気づけるとその後の対応も変わってくると思う。教員間で共有することや、児童とのコミュニケーションを大切にしながら教育活動を進めていきたい。

### 【 駐車場について 】

○ 多くの先生方が、受付開示時刻よりも早く会場に来たので、駐車場係の仕事を早く終わらせることができた。

○ 「満車」の看板が役立った。

○ 夏季研修会の会場を中村中に行っている部会が多かったため、結構な台数となった。中村中の先生が駐車場係をしてくださいましたが、例えば、中村中を使用する部会から、一名は駐車場係を出してもらおう等、検討していただけるとありがたいです。

● 中村中学校の先生方には、ご迷惑をおかけしました。運営委員会の場での検討課題とします。

今年は、中村中学校を会場とする部会が集中しました。駐車場のことに加えて、終了後の教室の電気やエアコンがつけっぱなしであったり、戸締りが不十分だったりしたところもあったようです。

### 【 その他 】

○ 多くの学校が参加者名簿を持参してくれており、受付での混雑はなかった。

● 各学校で出欠の名簿を出してくださいましたが、受付で「○をつける必要はないですか？」と問われることが多々あった。(出欠名簿は各学校で代表者が持参)ということ各校教職員に周知徹底してもらうことが必要。

● 受付での混雑はなかったが、早めに会場に来た人が多く、開場までの待機時間が長くなり、

2階ロビーは混雑していた。

- 午前中に開催した教科外・領域の夏季研修会に関する旅費請求書・謝金請求書を当日のうちにしまんとびあで提出していただいた部会については、その後の処理がスムーズに進んだ。
- 教科外・領域の事務局が講演会を欠席する場合には、事前に確認しておき、代理人が関係書類を預かって提出してもらうようにしてはどうか。

### 【 期日について 】

- 本年度は8/1（金）開催で、その次の週より「学校閉庁日に準ずる期間」続いて「学校閉庁日」に入ったこともあり、学校として講演会の振り返りをまとめることが難しかったためか、数校の提出にとどまった。  
来年度は、現在のところ令和8年7月31日（金）で、しまんとびあを仮予約しています。講師の都合等の変更も想定されますが、数多くの振り返りが寄せられるような日程調整を行いたい。

### 【 希望する講師及び講演内容について 】

希望する講師については、固有名詞は上がってきませんでしたが、講演内容については、下記のようなご意見が寄せられましたので、運営委員会の場で協議したいと考えております。

- ◆ 今年度のような支援の必要な児童にどのような支援が必要か学べる内容。  
もしくは、教育DXに関する実践事例等の内容で学びたい。
- ◆ 発達障害に対する支援の在り方、周囲の理解のさせ方
- ◆ 合理的配慮の具体的な方法例
- ◆ インクルーシブ教育
- ◆ 非認知能力
- ◆ インクルーシブ教育の実践的な内容（効果的な手立てや声かけ）



### 【 開会行事 】

令和7年7月2日付けで就任した松田文雄四万十市教育長が開会のご挨拶。

市内の教職員が一堂に会した場では、初のご挨拶でした。

松田教育長が推進する柱の中に、「特別支援教育」の視点は大きなウエイトを占めています。



### 【 特別支援教育の定義のひとコマ 】

後野先生のご講演は、「特別支援教育の定義」からスタートしました。

「教育」の視点からのアプローチです。

言葉の変遷に加えて、その意味付け等について、基本的な認知の大切さを伝えてくださいました。



【 医療科学の視点のひとコマ 】

続いて「医療科学」の視点からのアプローチです。「脳の活性化」（働きの部位）について説明されている場面です。

発達障害が見て取れる子ども達に対しては、単なる言葉がけだけでは、こちらが期待する「行動化」は難しい。より具体的で分かりやすい働きかけが求められる。



【 閉会后 】

何人かの先生方が、ステージに留まっておられた後野先生のもとへ来られ、ご講演に関連した内容で、日頃悩んでおられること等を質問されました。

後野先生は、具体的な事例もあげながら、丁寧に対応してくださっていました。



【 閉会行事 】

四万十市教育研究会、山崎源生会長（県立中村中学校長）より、後野文雄先生への謝辞と閉会のご挨拶です。